

# 猿新聞

編集・発行  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp

## 春先からの獣害対策

獣害は春先の植え付けから、収穫期まで一年を通して発生します。

毎年春先に豆類・水稲被害が発生しており、特に豆類は春先の被害は収穫に大きな影響が出ます。

シカ、イノシシは昼夜を問わず活動し、畑など開放的な場所に出るのには夜の方が多ですが、実際日中に畑で目撃することもあることから、電気柵などは24時間体制で稼働させるべきだと思います。

5、6月はシカによる水稲被害が発生する時期です。田植え後、苗の柔らかい時期から活着葉の硬化がある程度すすむまで、シカの食害が多発します。葉の先端をシカにかじられた程度の軽微な食害では、減収などの実被害に至らないため、看過されています。

これが、餌付けの出発点となっていることを忘れてください。

だが、一度食害した場所を回復して食害することも多く、2回以上食害を受けた場合は大きな減収となります。

向があり、過去に被害があった圃場は毎年注意が必要です。

収穫直前の応急的な防除として、臭いや光などで脅す忌避剤も短期間なら効果があります。

春先の自家用菜園では、夏野菜の播種や育苗が盛んになる季節です。中山間地域の自家用菜園では、春・冬期にかけ常に多数の野菜類が無防備で栽培されていますが、無防備での栽培を継続することが、恒常的な餌付けであることを認識して下さい。また、収穫後の無配慮な貯蔵も餌付けをすすめます。

栽培過多で捨て作りのな栽培を改善し、野生動物の餌になる「残さ」をなくしましょう。

追い払いはあきらめず、根気よく行うことが大切です。怖い目に遭うことのないように注意して下さい。

### 区別は難しい シカとイノシシの足跡

イノシシ、シカは同じ偶蹄類ですが、イノシシは副蹄が低い位置にあり長い蹄の跡とその後ろに1対の副蹄の跡がつくのがイノシシの足跡の特徴です。しかし副蹄は泥地など、柔らかい地面でないと跡が付きません。

その場合はシカとの区別が難しいです。掘り返し跡や糞を探し、シカと区別しましょう。シカは、副蹄が高い位置にあり、やわらかい地面でも、イノシシと違い副蹄の跡はつきません。イノシシの糞は、パラパラ転がっていて直径3センチ位で「ゲンコツアメ」のような形をしていることが多いです。シカの糞は俵状で、ころころと転がっています。



イノシシの足跡と糞

シカの足跡と糞

左写真何れも兵庫県森林動物研究センターHPより。

## 第4期モンキードッグ

三重県では、獣害に強い地域づくりを再強化推進するために、新たに「獣害対策に取組む集落育成事業」を創設し、平成25年度も引き続き、モンキードッグ訓練経費等を支援することにしました。

これを受けた名張地域鳥獣害防止広域協議会では、第4期MD育成訓練を平成25年10月から、「あすかドッグスクール」警察犬訓練士 島田 紀子氏に委嘱し行われています。

MD育成訓練は3月終了以降、自主訓練後に認定を経て、6月頃には第4期の「野生獣追い払い犬」が誕生する予定です。



第4期MD訓練風景



山中での実地訓練

らにとって、決して棲みにくい環境ではありません。ハナレザルを放置しておくと、居着いてしまします。特定の集落に居着いてしまい、住民から顔を覚えられてしまうハナレザルもいます。彼らも、出会っても怖くない人はすぐに覚えます。このように人慣れが進むと大胆になり人を脅したり、人家に侵入したりすることもあります。人慣れが進むにつれ、エサを食べられる場所や方法をどんどん覚え、場慣れしていきます。

このようにサルが群れに入ると、時として人を怖がらず、人家近くに頻りに出没するような人慣れや場慣れの悪い習慣を群れ全体に伝えることになるというわれています。

サルは、山に棲むイメージが強いがハナレザルはどんなところにも出没し居着きます。大きな危険を冒してまで人目に触れる人里にサルがやってくるのは、彼らにとって利益があり、いい思いができるからだと思います。

## 人慣れ・場慣れ

ハナレザルは、群れを離れて独り立ちしたばかりの4〜5歳の若いオスサルです。サルは、山に棲むイメージが強いがハナレザルはどんなところにも出没し居着きます。大きな危険を冒してまで人目に触れる人里にサルがやってくるのは、彼らにとって利益があり、いい思いができるからだと思います。

市街地でも、庭の果樹や家庭菜園が多く、彼らにとつて利益があり、いい思いができるからだと思います。

平成26年4月から指南員さんが替わりました。昨年お世話になった、義本、岡森さんが退職され、本年度は井上さん(写真)にお世話になります。

## サルの出没状況 名張A・B群

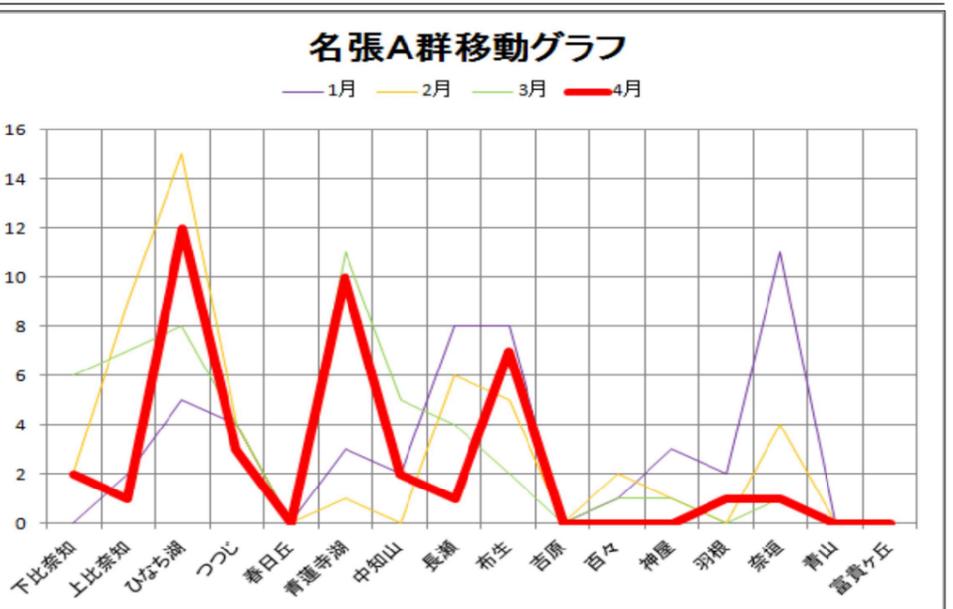
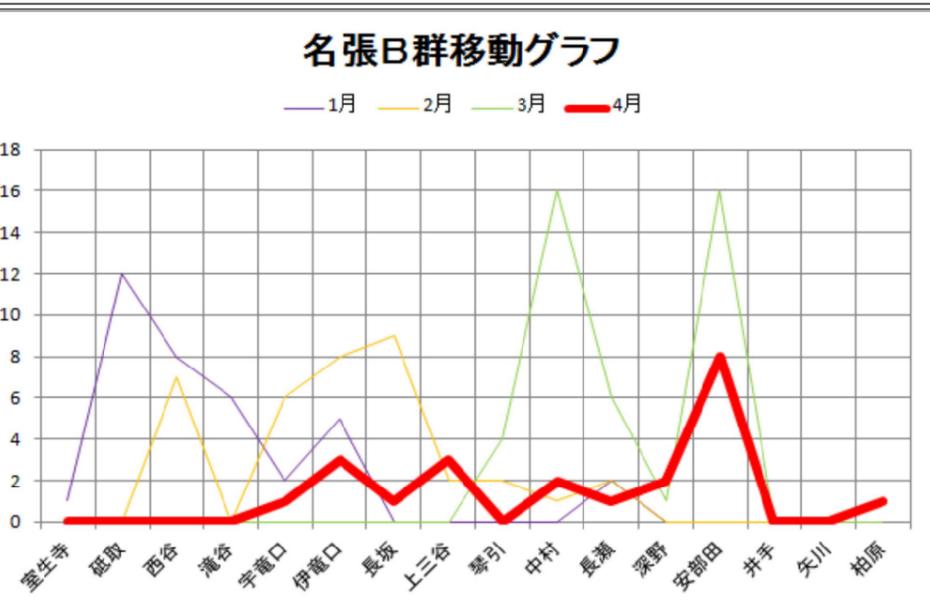
A群は、春先の動きとしては例年通りで、青蓮寺湖、ひなち湖周辺に集中して活動しています。両湖周辺では、季節に応じて次々とサルたちの好む花が咲き変わり初夏には、青蓮寺湖では桑の実、ひなち湖ではニセアカシアの花が咲きます。

サルたちも毎年この時期を待ち望んでいるのだと思います。桑の実が熟れニセアカシアの花が咲く頃には、A群の大半がそこに集中します。その前兆を、下のグラフからもうかがえます。

B群は、自然の餌が豊富な季節ですので、特定の地域にとどまることなく遊動しています。

指南員報告  
4月のサル移動傾向  
A群は、前半は青蓮寺、後半は比奈知の両ダムに居ついて、新芽や花弁を菜食している模様です。

B群は、前半は、上三谷、竜口で過ごし、後半は、165号線の北側を安部田から深野、三本松方面に移動しています。



名張B群移動グラフ

名張A群移動グラフ